

甲 第 号

西村 信城 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	室 繁郎
論文審査担当者	委員	教授	笠原 敬
	委員(指導教員)	教授	吉本 清巳

### 主論文

The Combination of the Lactate Dehydrogenase/Hemoglobin Ratio with the PLASMIC Score Facilitates Differentiation of TTP from Septic DIC Without Identification of Schistocytes

LD/Hb 比を PLASMIC スコアと一緒に使用することで、破碎赤血球の識別なしに TTP と敗血症性 DIC の区別が容易になる

Nobushiro Nishimura, Kiyomi Yoshimoto, Noritaka Yada, Ayaka Kakiwaki, Akihiro Sawa, Satoshi Senzaki, Hiromasa Kawashima, Ryo Yoneima, Shiro Ono, Kazuya Sakai, Masanori Matsumoto, Hidetada Fukushima, Kenji Nishio

Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis Volume 29: 1-8

## 論文審査の要旨

敗血症性播種性血管内凝固症候群（DIC：disseminated intravascular coagulation）はフィブリン血栓形成により、また血栓性血小板減少性紫斑病（TTP：thrombotic thrombocytopenic purpura）は血小板血栓形成により循環障害を招き、多臓器不全の原因となりうる。病態形成機序は異なるが、類似した臨床症状により、鑑別は往々にして困難である。後者はADAMTS13 活性の測定により診断されるが、その測定の専門性から実臨床では迅速な結果を得にくい場合も多い。本研究では、septic DIC において、既報の PLASMIC スコアに加え、LD/Hb 比が鑑別に有用であることを示した。

公聴会では、腫瘍関連の DIC/TMA の鑑別や、プロカルシトニン値・感染臓器や検出微生物と検査所見との関連、血液悪性腫瘍や横紋筋融解症などにおけるのスコアの解釈など、多岐に渡る質疑がなされ、文献的考察や病態および自身の臨床経験に基づき的確に回答された。また、validate コホートにて LD/Hb の有用性を再確認する必要について、前向き研究の必要性に言及されるなど、今後の研究の展望もしめされた。本研究は通常診療で容易に得ることができる検査指標から従来は鑑別困難であった疾患の迅速診断への新たな指標を見出した点で、臨床的に極めて有用な研究で総合臨床病態学の発展に寄与し得る。公聴会の質疑も的確で適切で、学位に値すると考える。

## 参 考 論 文

1. Plasma Level of von Willebrand Factor Propeptide at Diagnosis: A Marker of Subsequent Renal Dysfunction in Autoimmune Rheumatic Diseases  
Noritaka Yada, Kiyomi Yoshimoto, Hiromasa Kawashima, Ryo Yoneima, Nobushiro Nishimura, Yoshiaki Tai, Emiko Tsushima, Makiko Miyamoto, Shiro Ono, Masanori Matsumoto, Takashi Fujimoto, Kenji Nishio  
Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis. 2020 Jan-Dec;26:1076029620938874.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに総合臨床病態学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年6月11日

学位審査委員長

呼吸器病態制御医学

教授 室 繁郎

学位審査委員

感染病態制御医学

教授 笠原 敬

学位審査委員(指導教員)

総合臨床病態学

教授 吉本 清巳